

被災地クラブの活動状況と復興へ向けて(宮城県:後編)

～宮城県にある総合型クラブへの支援と今後の展望～

宮城県クラブ育成アドバイザー 相田恵美

前回メルマガの 7 月 20 日発行号(第 81 号)では、宮城県にある総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブ)のこの 1 年余りの活動について報告しましたが、今回は、それらの総合型クラブが受けた支援や今後の復興に向けての展望について紹介します。

はじめに

まずはじめに、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災の発生に伴い、全国の皆様より多くの励ましのお言葉やご支援を賜りましたこと、この場をお借りし御礼申し上げます。

被災地の総合型クラブへの支援状況

震災後すぐに、全国から様々な支援を、宮城県体育協会を中心にいただきました。物資支援では、スポーツ用具、うちわなど。人的支援では、軽運動の指導者派遣、アスリート派遣など。また、将来を担う子どもたちのため、県内のスポーツ振興に使ってほしいと支援金もいただきました。

着の身着のままで避難し津波で家を流され財産を無くした総合型クラブの方々には、飲料水、衣服・靴、泥かき道具、生活用品、学校体育教材、遊園器具、人的支援では、ヘドロのかき出し作業、地域商店街清掃、炊き出しの実施まで、多くの支援が県内外から提供されました。

しかし、中には、十分に足りている物資がさらに現場に送られてさばききれないケースや人的派遣の内容が重複するなど、支援内容に偏りが見られ有効に活用されなかったケースもありました。震災直後に、県内の総合型クラブから要望あった子どもたちが個人的に使用するスポーツ用具やスポーツウェア等は、現地の要望と支援の内容がマッチングしない部分もありました。



徳島広域スポーツセンターより 1600 本を超える
うちわの支援(H23.7)

震災直後、支援を受ける側の状況

震災直後は、ライフラインが復旧しない中でスポーツ活動、クラブ活動ができる状況ではありませんでした。

例えば、toto(スポーツ振興くじ)助成については、申請したクラブの中では申請のための諸条件が整わず、平成 24 年度の助成申請を断念したクラブもあります。

トップアスリートなどの有名選手の派遣受入れについては、地域で温度差がありました。スタッ

フも会員の生活の立て直しに追われる中、派遣受入れは困難を極め、派遣を受入れた場合も、被災しているクラブが会場の確保や訪れる避難所との調整などの対応にあたらなければならない、クラブスタッフ等が避難生活を送っている状況では協力したくても協力できない状況でした。

また、避難所には様々な人が避難しており、有名人やトップアスリートが来て喜び人ばかりとは限りません。スポーツ活動など「いまやる時期ではない」と考える人もいれば、「何もやらないよりはやって文句を言われた方が良い」「パフォーマンスと思われても良い」「みんなの笑顔を取り戻したい」「有名人やトップアスリートが来て少しの間でも喜んでもらいたい」と考える人もいました。地域住民の意見が分かれる中でクラブが板挟みとなり、派遣の受入れについてクラブは難しい判断を求められました。このような中、下記写真の事業は参加者の方々が大変喜んだ事業のひとつです。



宮城県教育委員会委託事業 トップアスリート派遣事業 トゥリトネスによる水中パフォーマンス(会場:NPO 法人アクアゆめクラブ プール)

今後、望まれる支援

震災発生前の平成23年3月時点で、宮城県内には32の総合型クラブがあり活動していました。全国から視察の依頼のくるクラブや全国的に活動内容を紹介されたクラブ、運営が比較的安定していたクラブも、震災によって状況は一変しました。

震災から1年以上経過しておりますが、活動拠点が失われたままのクラブや、会員の確保や会費徴収がままならないクラブもあり、行政主導で立ち上げたクラブの場合は行政がクラブの運営まで手が回らないケースがあるなど状況は様々です。

特に津波の被害を受けた被災地の復旧・復興は遅々として進んでおりません。しかし、各クラブとも創意工夫しながら、やれることから取り組んでいます。

まず、総合型クラブ自体の体力が戻らなければ、支援を上手に活用することができません。今後は、一律の支援ではなく、各クラブが置かれている状況に合ったきめ細かな支援が求められます。

関連リンク：相田恵美氏プロフィール

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/463/Default.aspx>